

☆世界**通商****アパレル企業、LDC 諸国に投資拡大へ**

国連がこのほど発表した「後発開発途上国外国直接投資」報告によると、繊維企業、特に新興国の企業は、コストが上昇している中国などからの移転を含め、アジアやアフリカの後発開発途上国（LDC）への新たな投資ビジネスチャンスを積極的に狙っている。

国連貿易開発会議（UNCTAD）によると、生産ラインの移転は、特に生産労働集約型の低価格製品（Tシャツなど）を生産する企業に多く見られるという。UNCTAD では、中国からの移転が増えている理由として、中国政府が内外企業の税率を統一したこと、繊維品の輸出時の増値税の還付率を下げたこと、人件費の大幅な上昇などが要因であると分析している。

報告では、大規模なアパレルの投資案件は、ラオス、カンボジア、ミャンマーなどのアジアの後発開発途上国で多くみられるという。例えば、韓国の Youngone 社は 2008 年にバングラデシュに約 1 億ドルの新規投資を行った結果、1,785 人に雇用機会を与え、更に 980 万ドルを増資した。

その他、米国によるサハラ以南のアフリカ諸国に対する関税優遇策（ゼロ関税）も外資をひきつけており、エチオピア、マダガスカル、モザンビークなどサハラ以南のアフリカ諸国での投資も増加している。エチオピアのアパレル業界への直接投資計画には、2010 年の中国 Xinxiang Kuroda Mingliang の 6,700 万ドル、2007 年のトルコ Ayka の 1 億ドル、2008 年のインド Tata の 220 万ドルが含まれる。また、モーリシャスの Ciel がマダガスカルで投資額 3,050 万ドルの計画を進めているという。

☆中国**繊維業況****2011 年第 1 四半期の化繊業界の業況**

中国の現地報道によると、2011 年第 1 四半期の化繊業界の業況は以下の通りである。

化繊生産...1～3 月の化繊生産は前年同期比 18.0% 増の 772.7 万トン。うちポリエステルは 21.0% 増の 628.0 万トン、ナイロンは 10.6% 増の 38.2 万トン、アクリルは 8.2% 増の 18.9 万トンであった。化繊価格は、多くが 2011 年 1 月から 3 月中旬まで小幅に上昇した後に、3 月中旬以降は下落した。

化繊川下部門の 9 大業種の生産は全て前年同期比増となり、そのうち、

化繊紡績糸は 16.65%増、化繊生地は 16.45%増、不織布、タイヤコード織物はそれぞれ 18.6%増、8.01%増となった。

化繊生産高・利益...1～3月の化繊業界の工業総生産高は前年同期比 40.5%増の 1,437.1 億元、主力業務収入は 39.0%増の 1,371.4 億元となった。同期の化繊業界の利益総額は 83.0 億元と前年同期にくらべ倍増となった。赤字企業の赤字総額は 3.8 億元、前年同期比 15.4%減、業界全体の赤字企業の割合は 14.3%であった。業界別にみると、ポリエステル業界の利益総額は前年同期比 3 倍増の 50.7 億元、業界全体の利益の 61.1%を占めた。

化繊輸入...1～3月の化繊輸入は前年同期比 2.3%増の 22.0 万トと小幅ながら増加した。一方で輸入金額は 27.4%増と大幅に増加した。品種別にみると、レーヨン短繊維の輸入量は前年同期比 57.4%増、ポリエステル F とスパンデックスの輸入量はそれぞれ 2.9%増、2.8%増と小幅増となった。ポリエステル S、ナイロン F とアクリルの輸入は、それぞれ 20.4%減、8.0%減、1.8%減と減少した。

合繊原料輸入...国内の原料不足が続き、1～3月の主要合繊原料輸入は 389.3 万トであった。うちエチレングリコールの輸入量は 170 万ト、合繊原料輸入全体の 43.7%を占めた。国内の PTA 生産能力の拡大に伴い、PTA の輸入は 4.1%減の 151.2 万トに減少した。溶解パルプの輸入は 3.6%増の 25.1 万トであった。

化繊輸出...1～3月の化繊輸出は前年同期比 64.7%増の 68.5 万ト、輸出金額は 92.6%増と大幅に増加した。品種別にみると、ポリエステル S とポリエステル F の輸出はそれぞれ 118.1%増、58.3%増、レーヨン S 輸出は 56.7%増となった。

化繊投資...ここ数年、化繊業界の投資熱が高まっている。1～3月の化繊業界の施工プロジェクト数は 383 件、新規着工数は 132 件であり、実際完成投資額は 128.7 億元、前年同期比 2.1 倍となった。ナイロン、ポリエステルの固定資産投資額は倍増以上となっている。

<2011 年化繊業界年間予測>

政府による貿易黒字の調整やマクロコントロールのもと、また電力供給が楽観できない状況のなか、繊維需要は拡大するものの、新しい能力の稼働開始が、業界の動向に一定の影響を及ぼす見通しである。具体的な見通しは以下の通り。

価格：原料価格及び綿花価格は高位で推移し、化繊価格の大きな下支えとなる。川下需要が伸びるかどうかが、化繊価格の鍵となるが、新規の生産能力が稼働を始めるに伴い、化繊価格が大幅に上昇する可能性は

少なく、業界では原料高騰のコストを吸収することが鍵となる。

生産：年間生産は前年比約 12% 増の 3,300 万トに達する見込み。

輸入：約 5% 減の 85 万トとなる見込み。

輸出：約 35% 増の 260 万トと引き続き増加する見込み。

収益：利益総額は約 200 億元～220 億元となる見込み。

合繊設備

恒申集団、ナイロン、スパンデックス工場を建設へ

恒申集団は福建省長楽市で、ナイロン 6 チップ、ナイロン 6 長繊維（各年産 18 万ト）、スパンデックス（年産 10 万ト）工場の建設を開始した。総投資額 6 億元。同集団はまた、カプロラクタム工場を建設する計画で、投資額は第 1 期が 60 億元、最終的に 250 億元を投入する見込みである。これにより年間生産額 400 億元のカプロラクタム工場の建設を目指す。

長楽市は大規模な繊維産業基地を同地に建設することを計画しており、このほど 18 件のプロジェクト（総投資額 206 億元）が調印した。長楽市によると、カプロラクタム、ナイロン、ポリエステル、綿紡績、ニット、縫製、繊維機械などを含むもので、2 年以内に 1000 元規模の繊維産業集積地となる見通しである。

長楽市の現在の繊維関係の生産能力は、化繊が年産 108 万ト（うち紡織用ナイロン F が 40 万ト）、綿紡が約 500 万錐、たて編みが年産 30 万ト等である。

なお、中国では恒申のほか浙江恒逸集団（年産 20 万ト）、華峰氨綸がカプロラクタムへの参入を計画している。

海外投資

NILIT、中国での投資拡大

ナイロン 66 メーカーの NILIT は、NILIT Engineering Plastic Technologies Co Ltd.（屹立（蘇州）工程塑料科技有限会社）の拡大計画に署名したことを発表した。事業範囲及び中国投資を拡大する。NILIT はこれまで、2007 年に蘇州にナイロン加工糸工場を、2009 年にはプラスチック・コンパウンド工場を開設している。今回の拡大計画により、NILIT は中国市場において顧客に高品質製品及び地域に密着した専門的なサービスを提供するという同社のコミットメントをより強固なものにする。

蘇州市人民政府や蘇州工業園区管理委員会などの代表者からなる中国代表団が出席する中、イスラエルの Tel Aviv において、NILIT 会長の Micheal Levi 氏と、Yang Zhiping 氏が MOU に署名した。署名セレモニー後には祝賀会が開かれ、最後には恒例としてギフト交換が行われた。

翌日には代表団は Migdal Haemek にある NILIT 施設を訪問した。

NILIT は、イスラエルのナイロン 66 メーカーで、イスラエル、米国（Nylstar より買収）、ドイツ（INVISTA より買収）にナイロン F 向上を有している。

☆オランダ

合繊原料

Indorama、ロッテルダム工場で PTA 能力拡大

Indorama Ventures PCL は、このほど開かれた取締役会で、Indorama Holdings Rotterdam B.V. (IRHR) の既存工場での PTA の生産能力を年間 25 万トンを拡大する計画を承認した。2014 年末までの完了を目指す。拡大後は、IRHR の生産規模は年産 60 万トンとなり、イタリアの Ottana 工場（年産 19.2 万トン）とあわせて、欧州の PTA 生産を年産 79.2 万トンに拡大する計画である。

同社は EU における PTA 需給動向を踏まえ、拡大を決めた。

ロッテルダム工場は、2008 年に Indorama Ventures が Eastman Chemical Company から買収したもので、欧州の PET 生産向けに PTA を生産している。

Indorama Ventures は世界最大の垂直一貫型ポリエステルチェーンメーカーの一つであり、毛糸メーカー大手でもある。同社は世界の高度経済成長国に営業・生産拠点をもち、その製品は、食料、飲料、パーソナル・ホームケア、ヘルスケア、車輛、テキスタイル、産業用途など、各種用途に用いられている。